

科 目 名	子どもの文化					開 講 キャンパス	神 園
担 当 者	山 田 浩 之						
開 講 年 次	2	開講期	後期 (集中)	単位数	2	必修・選択	必 修 (3、 4 年) 選 択 (1、 2 年)
授業の概要 及びねらい	児童文化の成立期から現代まで幅広く多面的に「子ども」とその文化について考察するとともに、現代社会の多様化する子ども文化、および子どもを取りまく社会的、文化的環境について検討し、議論する。						
授 業 の 到 達 目 標	1) 児童文化の成立過程について理解する。 2) 近代以後における子ども文化の変化について理解する。 3) 現代社会における子ども文化の多様化とその社会的背景について理解する。 4) 現実の具体的な子ども文化について理解し、論じることができる。 5) 子ども文化と教育、学校との関係を理解する。 6) 子ども文化と社会との関係についてに論じることができる。 7) 「子ども」概念の歴史的形成について述べることができる。 8) 現在の子ども文化の変容について議論することができる。 9) 情報化社会における子どもの問題について議論することができる。						
学 習 方 法	講義を中心とするが、テーマによりビデオ視聴、ディスカッションなどを行う。						
テキスト及 び参考書等	資料を配付し、参考図書については講義中に適宜紹介する。						
評 価 基 準 ・ 方 法	到 達 目 標						
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	評価割合%		
定期試験	◎	◎			60		
小テスト等	○	○			20		
宿題・授業外レポート							
授業態度			○		10		
受講者の発表							
授業への参加度			○		10		
その他							
合 計					100		
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	イントロダクション						
第 2 週	「子ども」の誕生						
第 3 週	日本における「児童文化」の成立						
第 4 週	戦後における第二の子どもの誕生						
第 5 週	現代社会における子ども						
第 6 週	受験社会の中の子ども						
第 7 週	子どもと教育イデオロギー						
第 8 週	家庭の文化と子ども						
第 9 週	再生産される文化						
第 10 週	子どもの世界の喪失						
第 11 週	制度化される子ども						
第 12 週	子どもと逸脱						
第 13 週	少年犯罪の社会学						
第 14 週	情報化社会の中の子ども						
第 15 週	まとめ						
第 16 週							
備 考							